

B型肝炎ウイルスに対する新たな治療薬が登場

グラクソ・スミスクラインは、成人のB型肝炎ウイルス（HBV）持続感染に対する治療薬として開発中のアンチセンスオリゴヌクレオチド bepirovirsen の承認申請について、世界に先駆け日本で行ったと発表。

核酸アナログ（NA）による標準治療を受けている患者に対し、プラセボ群（NA 単独群）と bepirovirsen を投与した群で比較した結果、bepirovirsen 群では有意な機能的治癒の達成割合が示されました。

現在の治療選択肢による機能的治癒の達成割合は、ペグインターフェロン（PegIFN）で2～8%未満、NAの経口薬で1%未満となっていますが、bepirovirsen では約9～10%でありました。